

雷とともにやってくる魚 「ハタハタ」

八峰町では、毎年12月の上旬あたりになると雷鳴とともにハタハタが接岸するようになります。ハタハタは八峰町民の生活に密着してきた魚で、「しょつる鍋」や「はたはた寿司」などの伝統的な食文化を現代に伝えています。



ハタハタ漁の様子

産卵するため、岸辺に大群で押し寄せてきます。これが俗にい「季節ハタハタ」で、成熟したブリコの味を楽しむことができます。この時期は海が荒れ、雷が鳴ることが多いので別名ミニナリウオとも呼ばれています。

ハタハタは漢字では鰯、鱈、魚編に「神」と書くのは、神から贈り物として感謝と畏敬の想いを表しているとされています。また、古語で霹靂神（はたがみ）とは激しく鳴りひびく雷のことを指します。いずれにしてもハタハタは「雷」に由来する名前が多いようです。

冬の雷は珍しい？

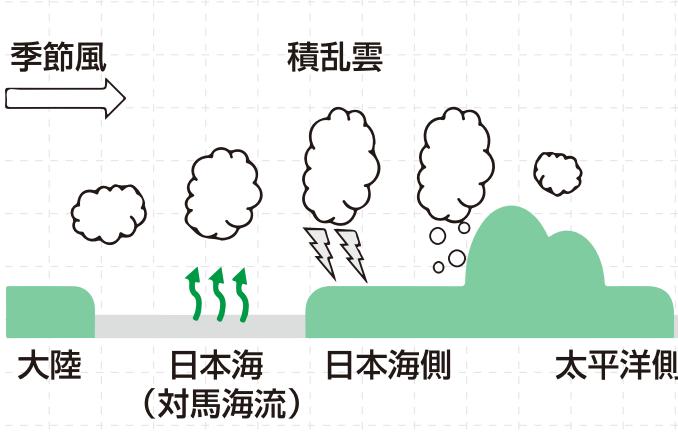
ところで、日本のような中緯度地域では、積乱雲が発達しやすい夏に雷の発生が多くなるのが一般的です。冬に落雷が多くなる現象は世界的にも珍しく、日本海沿岸以外では、ノルウェーの大西洋沿岸や北米の五大湖東部に限られた気象現象です。

ハタハタは普段は海底に棲息し、砂に潜る習性があることから、英語では「japanese sandfish（砂の魚）」と表記します。そして、産卵期の晚秋（初冬になると浅い岩場の藻に

吹き出してきた冷たいシベリア気団が日本海の対馬海流によつて暖められて発生する積乱雲によるものです。この積乱雲は白神山地などの山に衝突し雷や雪を降らせ、太平洋側では乾燥した冷たい空気となります（左図）。

和歌・俳句では雷の季語は夏となっています。

日本海沿岸の雷は、大陸から



ハタハタと冬の訪れ

今年は暖冬で、八峰町でまとまつた量の季節ハタハタが水揚

げされたのは例年より遅い12月10日でした。

八峰白神ジオパーク推進協議会 地域おこし協力隊 三輪拓磨

〒018-2632 秋田県山本郡八峰町八森字三十釜一四四一
ぶなつこランド内

TEL 0185-177-3086



この時期は八峰町の漁港が大いに賑わいます